

## 今週のメニュー

## ■トピックス

◇第20回 塩ビ工業・環境協会 総会・懇親会を開催

## ■随想

◇古代ヤマトの遠景〔番外〕(25)

木下 清隆

## ■編集後記

## ■トピックス

## ◇第20回 塩ビ工業・環境協会 総会・懇親会を開催

5月17日に塩ビ工業・環境協会 第20回総会・懇親会を開催いたしました。懇親会には官庁、報道関係、関係業界などの方々にご参加いただきました。角倉会長の挨拶に続いて、来賓の経済産業省製造産業局 佐藤審議官から祝辞をいただき、松屋副会長の発声で乾杯のあと、歓談に移り、盛況のうちに終了いたしました。

以下に、角倉会長の懇親会での挨拶を掲載いたします。



角倉会長

本日は、皆様ご多用のところ、経済産業省の佐藤審議官様をはじめ関係官庁、報道関係、塩ビ製品業界他、多数の方々にご列席いただきました。誠にありがとうございます。

また、平素より塩ビ業界に暖かなご支援をいただき厚く御礼申し上げます。



佐藤審議官



松屋副会長

昨年度の塩ビ樹脂の状況は、国内出荷量は101万7千トンと前年度比微増に留まりました。一方、輸出については、メイン輸出先であるインドが、高額紙幣廃止問題の影響で後半失速したことで、59万6千トンと期待された60万トンをわずかに切ったものの、前年度比104%と順調に伸びました。その結果、トータルの出荷量は161万3千トンとなり、2010年度以来、6年ぶりの160万トン超えとなりました。

今年度は、いよいよ2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催が迫ってきていることから、建設やインフラ整備など、塩ビ樹脂の国内需要は、今年こそは、大きく伸びると期待しております。

さて、オリンピックでは、持続可能性・資源循環が大きなテーマとなっています。耐久性、省資源性、リサイクル性能など環境性能に優れる塩ビ製品の貢献できる可能性は大きいと考えております。業界一丸となって具体的な提案を行って参りたいと思います。

また、リサイクルの活動ではこの1年間で進展がありました。当協会のリサイクル支援制度で、昨年「塩ビ壁紙の材料リサイクル技術の開発」を採択しました。これまで困難と考えられてきた塩ビと紙の複合材をそのまま加工して再生材とし、滑り防止養生シートに成形するもので、工事現場などで応用する予定です。

住宅・建物部門では、省エネルギー基準の義務化やZEB/ZEH（ゼブ/ゼッチ）、いわゆるネットエネルギーゼロの実現を政府が強く推進しています。12月から改修に向けた補助金「住宅ストック循環支援事業」も示され、今後、建築物の断熱性能はさらに強化されていくと思われます。その中で、断熱性能の高い塩ビ樹脂窓はおおきな貢献をします。樹脂複合サッシを含む断熱窓は戸建て住宅において59%となりました。樹脂窓のさらなる普及促進に向け、課題の発掘と推進策の検討及びLCIデータの計測などの活動を進めて参ります。さらには、工場の環境と保安対策、化学物質管理についても常に最重要課題と認識し、海外の塩ビ関連団体とも協力して、しっかりと取り組んで参ります。

昨年は、イギリスのEU離脱に始まり、トランプ氏のアメリカ大統領就任など、世界の政治経済は今まさに先が見えない混沌とした時代に突入しております。だからこそ皆様と共に、しっかりと大地を踏みしめながら、一步一步、力強く歩んで行きたいと思っております。

最後になりますが、本日ご列席の皆様の益々のご多幸と、塩ビ産業の健やかな成長を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。ご清聴有難うございました。

## ■ 随想

### ◇古代ヤマトの遠景〔番外〕(25)

木下 清隆

<前回とのつながり>

前回、天照大神の伊勢遷座時期に大活躍した大若子命が、櫛田神社のこれまでの祭神、櫛玉命に替わって、その後、祭神として祀られるようになった経緯を説明した。この祭神変更は、持統朝に、度会氏がその地位を貶められたことによる、失地回復の願いがあったことと、大和を中心とする畿内及び主要地で「出雲隠し」が、強力に進められたこと等によるものと云える。今回は、このような経緯を踏まえての、その後の展開である。

これまでの検討で、度会氏の腐心の跡がある程度見えてきたといえるが、その内容をまとめると次のようになる。

- 天照大神の伊勢遷座については、天皇の意思でこれが行なわれたと考えられることから、『倭姫命世記』に記述されているような放浪はなかったと云える。このような放浪譚を作り上げたのは、度会氏と考えられるが、その目的は彼らの祖である大若子命を世記の中で活躍させることで、彼らの立場を強化しようとしたと考えられるからである。従って、世記の原本と見られる『太神宮本記』は度会氏の宣伝のために作成された可能性が高いといえる。—

このようにして新生櫛田神社は誕生したが、このとき追われた櫛玉命とはどのような神なのか、が問題となってくる。これまでの検討から分かっているのは、出雲系の神というくらいであってその素性は全く分からない。伊勢津彦との関係については、櫛玉命が祭神

として櫛田神社に祀られていたと考えられることから、伊勢津彦とは異なる存在であるといえる。伊勢津彦はこれまでの検討で伊勢国造家の祖と位置付けてきたが、せいぜい祖霊として祀られていた程度であって、祖神にまでは昇格していなかったと考えられる。血の繋がった祖先が神になることは、普通ではまず考えられないことだからである。このように両者が異なる存在であるとなると、櫛玉命はどのような経緯で伊勢の地に入り、櫛田神社で祀られるようになったのが改めて問題となってくる。このような問題も含め、櫛玉命については後で再度検討することにする。

櫛玉命が大若子命の前に櫛田神社で祀られていたとすると、櫛田神社の創建はかなり古いものになってくる。どの程度古いのかはわからないが、その古さは社名からもうかがえる。櫛玉命を祀る神社がなぜ櫛田神社と呼ばれたのかについては、「クシタマ」と「クシダ」の語呂合わせ程度の想定しかない。この考え方を用いると、まず櫛玉命を祀る神社付近の田がいつしか櫛田と呼ばれるようになり、そこから櫛田神社の名が自然に生まれ、創建時の名が忘れられた、といったプロセスは考えられよう。従って、櫛田川の名称の誕生はこの後と云うことになる。

この櫛田の誕生は、記紀の完成時期より古いことは明らかである。それは『倭姫命世記』の中に櫛田の由来を説明するために、倭姫命がわざわざ櫛を落とす話が挿入されているからである。このことは当時、既に櫛田の地名が存在していたことを示している。従って、櫛田神社の誕生は七世紀以前のかかなり古いものであることは想定されるが、その時期をこれまでの検討から特定することは出来ない。『倭姫命世記』がその原典である『太神宮本記』の内容と大きく変わっていないとの前提に立てば、このように云えよう。

なお、櫛田神社は櫛田川の近くに建っていることから、この川の名から櫛田神社がうまれたとも考えられるが、これは次のような理由から無理である。



櫛田川

(かつては「多気川」と呼ばれていた。)

この櫛田神社の側を流れる川は、その昔は多気川<sup>たけ</sup>と呼ばれていたらしく、それが、後に櫛田川に改名されたと考えられるからである。九二七年に『延喜式』が撰進されたが、その中に伊勢の斎王に関する細かな規定が記されている。斎王が選ばれ伊勢に向かう途中、当時良く知られていた六ヶ所の川で禊をすることが定められているが、この中の一つ、伊勢の斎王宮（斎宮）に一番近いところの川が「多気川」になっており、「櫛田川」の名はどこにも出てこないからである。このことから、現在の櫛田川は、十世紀前葉当時、多気川と呼ばれていたらしいことが分かる。では、いつ頃、櫛田川に名称変更されたのかであるが、それは十世紀後葉から十一世紀前葉にかけてのことと想定される。理由は、『太神宮諸雑事記』の天喜四年（一〇五六）条に、櫛田川が大風雨で増水し、渡れなくなったという記事があり、櫛田川と明記されているからである。

(つづく)

この「古代ヤマトの遠景」に対し、ご意見・ご感想を頂ければ幸いに存じます。>> [\(筆者\)](#)  
「古代ヤマトの遠景」: [バックナンバー](#)

## ■ 編集後記

5月に定年退職を迎え、VECを退職いたしました。2011年の2月に赴任し3月に東北大地震が発生し、バックナンバーを調べると震災以降の3月はメルマガを休止し、4月7日の311号から始まっています。私の最初の編集後記はその311号でした。以来今号まで編集に携わってまいりましたが、その間丸6年、記事ネタの取材や随想執筆の依頼では多くの方々にご協力いただきましたことに感謝申し上げます。是非、これからもこのメルマガに変わらぬご支援とご愛読をお願いいたします。(ももった)

## ■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



■ 東京都中央区新川 1-4-1

■ TEL 03-3297-5601    ■ FAX 03-3297-5783

■ URL <http://www.vec.gr.jp>    ■ E-MAIL [info@vec.gr.jp](mailto:info@vec.gr.jp)